

中小企業診断士 過去問ゼミ #1 (平成 25 年度)

平成 26 年 8 月 22 日

昨年度、自身が受験した時の再現答案です。10月22日の試験2日後にアップしているので、ほぼ再現できていると思います。まずは、読んでください。

「平成 25 年の中小企業診断士 2 次試験を受験してきました。模範解答ではなく、80 分の緊張感の中で対処したリアル解答です。専門校の模範解答は「本試験では役に立たない」という声は多いです。簿記講座の講師としては少し恥ずかしい結果（間違い）の部分もありますが、あえて公開します。参考にして頂ければ幸いです。（なお、正解を保証するものではありません）

1

負債比率 81.9→87.62

固定比率 73.33→92.38

流動比率 285→250

借入を行い、現金で出資した事により負債比率が上昇し財務健全性が、固定比率が上昇し長期安全性が、流動比率が低下し短期安全性がそれぞれ悪化した。

2-1

(a)

20 百万 20 百万 20 百万 20 百万 20 百万

40 百万 24 百万 14.4 百万 10.8 百万 10.8 百万

(b)

148.4 百万

140.4 百万

2-2

減価償却費の違いが税金の支払額 8 百万の差になってあらわれた事で計算結果が一致しなかった

2-3

(a)

金融機関

(b)

148.4 百万

©

元金減少に伴い金利負担が小さくなるから

3

①顧客に不良品を納入する事で信用喪失する事②不良品を出荷しない為の内部検品コスト
③不良品を発生させないための予防コスト④品質管理の教育コスト等である

専門校などの解答を確認すると、たぶん 80~90 点くらいだと思います。緊張感の中で、どのように戦うか。このあたりを過去問ゼミでご紹介できればと思います。
では、はじめましょう。

過去問の学習方法

1. 過去問は最高のバイブルです。専門校の答練にも良問はありますが、やはり本試験に叶うものではありません。特に事例Ⅳの経営分析は、各企業の数値を徹底的に洗い出す練習をすれば、必ず本試験での対応力を確保できます。

事例Ⅳの本番での対処方法

1. 最初の 20 分は、とにかく我慢。どこに配点があるか？そのうち自分は、どこで点を取るか（できるだけ単独問題）をしっかりと設計する。
2. 「いける」と思って途中まで実施した問題であっても、途中で無理と感じたら「すっぱり、あきらめる事」も大事
3. 記述問題は、とにかく「解答要求」と「与件」を照らし合わせれば、「何か」書く事は可能。過去の受験者から「あの答案でAとがビックリ」という声はよく聞きます。決してあきらめず、最後の 1 分まで力を振り絞ってください

平成 25 年の対処法

①20 分間で設計

		傾斜配点	◎	○	×
第 1 問	財務指標 出資直前	15	15		
	出資直後	5		5	
	D社への影響	5	3	2	
第 2 問	設問 1 定額 a	15	15		
	設問 1 定率 a	2			2
	設問 1CF b	8	4		4
	設問 2	5			5
	設問 3 a	5		5	
	設問 3 b	5		5	
	設問 3 c	5		5	
第 3 問		30	23		7
合計		100	60	22	18

◎確実に取りたい ○できれば取りたい ×没問

<解説>

D -100万 → 植物工場

100万 (D社より)

50万 (自己調達)

第1問

D社の仕訳

子会社株式 100万 / 現預金 70万

長期借入金 30万

B/Sの変化を図示しよう

流動 570	流動 200	流動 500	流動 200
固定 385	固定 230	固定 485	固定 260
	純資産 525		純資産 525

流動資産	流動負債
固定資産	固定負債
繰延	純資産

第2問

(設問 1,2)

(定額法)

	区分	1	2	3	4	5	
売上高	CIF	50	80	90	90	90.	
変動費	COF	15	24	27	27	27	
固定費	COF	18	18	18	18	18	
減価償却費		20	20	20	20	20	
支払利息	COF	2	1.6	1.2	0.8	0.4	
税引前利益		△5	16.4	23.8	24.2	24.6	
法人税	COF		6.56	9.52	9.68	9.84	35.6
営業CF		15	29.84	34.28	34.52	34.76	148.4

(定率法)

	区分	1	2	3	4	5	
売上高	CIF	50	80	90	90	90	
変動費	COF	15	24	27	27	27	
固定費	COF	18	18	18	18	18	
減価償却費		40	24	14.4	10.8	10.8	
支払利息	COF	2	1.6	1.2	0.8	0.4	
税引前利益		△25	12.4	29.4	33.4	33.8	
法人税	COF		4.96	11.76	13.36	13.52	43.6
営業CF		15	31.44	32.04	30.84	31.08	140.4

なぜ、平成24年の問題と違い、赤字の税金を考慮しなかったか

<理由1> 「欠損金の繰越控除は考慮しない」と書いている

<理由2> 赤字の税金を考慮すると、定額法と定率法の累積CFが同額となるので、(設問2)の解答ができない

(設問3)

B/Kと私募債では、支払利息のCOFだけが変わる

B/K6に対して私募債は10である。従って、B/Kの方が残高は多くなる

上記P/Lから導かれる営業CF(定額法)に、財務CFの△50を加味する事で、現金残高は容易に導出できる

$$50 (\text{開始残高}) + 148.4 - 50 = 148.4$$

本試験では、このように判断したが、実際には「再借入+50」「更新投資△100」があるので、 $148.4 + 50 - 100 = 98.4$